

平成
29年度

決算額123億円の使い道

平成29年度の町の収入と支出の実績を表す決算が、町議会定例会9月会議で認定されました。一般会計では歳入が約123億円、歳出が約117億円となりました。ここでは決算の概要について紹介します。

総額が8年連続で100億円超 今年度も高い自主財源比率を維持

歳入 歳入総額は前年比14・6%増加
町税は前年比約8百万円増加

町に入ってきたお金（歳入）の総額は約123億円で、前年度に比べて約15億7千万円増加しました。

主な内容は、矢巾スマートIC本体や関連道路の整備事業などにより国庫支出金が約4億5千万円、町債が約6億2千万円増加、町債の繰上償還をするために基金を取り崩したことなどにより繰入金金が約2億2千万円増加しました。一方、税収の伸びなどを反映して地方交付税が約2千7百万円減少しました。

町税などの町が自ら収納して使えるお金「自主財源」は46・8%と前年度より2・7ポイント減少しましたが、町税は総額で約36億8千万円と依然高い数値を保持し、健全な財政運営の大きな力となっています。

厳しい財政状況は続くと思われませんが、自主的な財源による事業運営の推進と自主財源の確保に努めます。

歳出 土木費が前年比44・6%増加
総務費も前年比17・5%増加

町が使ったお金（歳出）の総額は約117億円で、前年度に比べて約14億6千万円増加しました。

主な内容は、歳入と同じく矢巾スマートIC本体や関連道路の整備事業などにより土木費が約6億9千万円増加、CO2排出削減対策モデル事業による公共施設のLED化を実施したことなどにより総務費が約2億8千万円増加しました。一方、農地の改良を行う事業や農地中間管理事業の集積協力金などが減少したことで、農林水産業費が約1億9千万円減少しました。

今後は若手医科大学周辺整備事業がピークを迎えるほか、地方創生事業および第7次矢巾町総合計画前期基本計画の推進に取り組むため、引き続き業務の効率化と支出抑制を行いながら、健全な財政運営に努めます。

▼歳入用語解説

国庫支出金：事業に対する国からの補助金

町債：公共投資などに伴う町の借金

地方交付税：町の財政力に応じて国から交付されるお金

自主財源比率：歳入全体のうち、自主財源がどのくらいあるかを示す割合。この数値が高いほど国や県に頼る割合が少なく、財政が健全であるといわれています。

▼歳出用語解説

総務費：一般事務経費や財産管理、積立金など

民生費：老人福祉や障がい者福祉、保育園費など

衛生費：病気の予防のための各種検診やごみ処理、し尿処理など

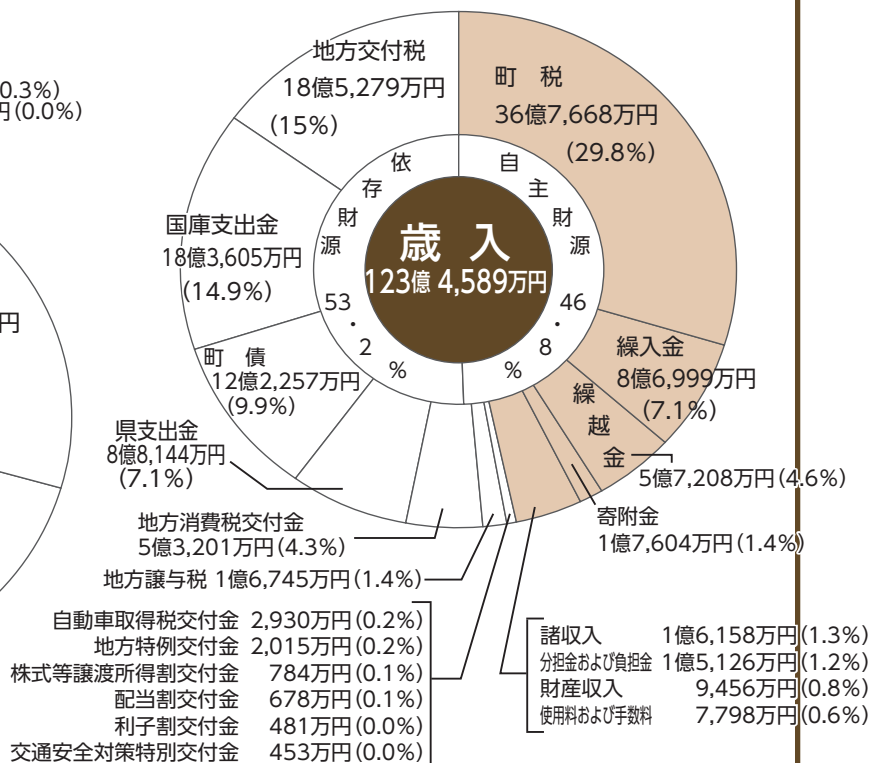
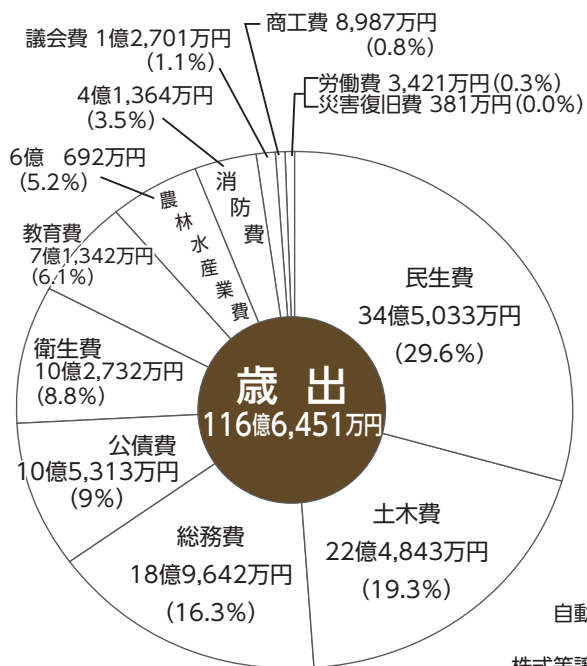
農林水産業費：農業の振興や用排水路の整備など

土木費：道路整備や区画整理、下水道整備、河川や橋の整備など

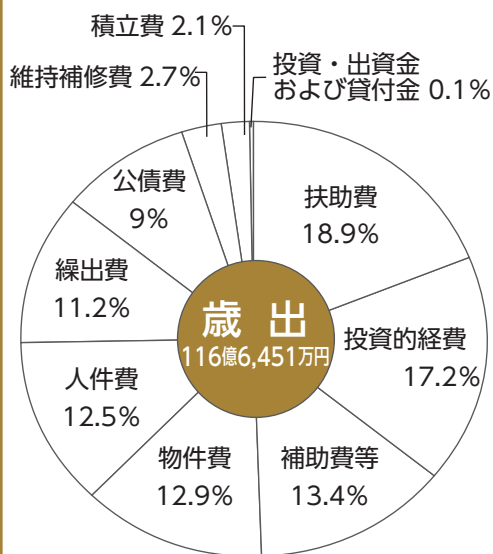
公債費：事業を行うために借りたお金（町債）の返済金

実質公債費比率：公債費が財政に及ぼす負担を表す指標。一般に、この数値が低いほど財政状態が良いとされています。

平成29年度 一般会計決算の構成

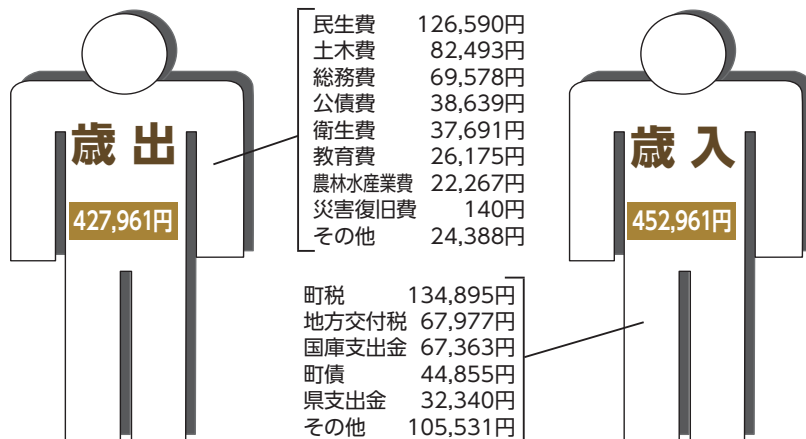


歳出の性質別内訳



町民1人あたりに換算すると…

(平成30年3月末の人口27,256人で計算)



平成29年度特別会計・公営企業会計の決算

会計名	収入額	支出額	会計名	収入額	支出額
国民健康保険事業	29億9,608万円	29億4,765万円	水道事業	収益的	7億7,273万円 / 4億5,344万円
介護保険事業	20億7,251万円	19億5,074万円		資本的	7億480万円 / 10億7,281万円
後期高齢者医療	1億9,283万円	1億9,086万円	下水道事業	収益的	10億3,906万円 / 9億7,965万円
矢幅駅周辺土地区画整理事業	6億8,528万円	6億7,211万円		資本的	4億1,105万円 / 8億8,182万円

(千円を四捨五入)